大日本機械技工組合趣意書

一、生活の安定

物價は益々暴騰して勞働者階級の生活は極度の影響を蒙り又僅かの日給で家族の四五人も有る者は日給では生活を得られぬと云ふ悲慘な状態である、此の様な者の中には喰を得る爲には即ち生活の安定を求むる爲には國家觀念もなければ愛國心もない、仲には自暴自棄に陷る者もおる、危險思想なるも因はかゝる所から生ずるものである、勞働者に限らず總て人間は如何に智能ある者でも、喰に困り餓ゑ遂に理性を失ふものであるから、かゝる時に煽動する者があつて、勞働者は徒黨を組みて事を揚ぐれば安全に喰ふ事が出來る、即ち生活の安定が得らるゝと甘言を以て迷せば、智能の程度の低い勞働者は事の是非を考へる遑もなく、如何なる大事を起さないとも限らない、故に本組合は事の起らぬ以前に同胞を善導して、以て勞働問題を合理的に解決せねばならない。

又海外市場に歐米品と競爭して日本品の發展を計るには粗製品を除去する様にせねばならぬ、現在では如何に精妙なる物品を作ろうと思ふても、生活が不安の爲め即ち喰ふに困る爲に、良き品を作るより惡い品を數多く作るとか、或は晝間働いて居て夜間殘業すると云ふ有樣である、是では幾年經ても技術が發達しないから從て良き品物が出來ない、組合員内に勵奬思想を鼓導して勞働問題を解決し、外に歐米品と競爭して日本品の販路を擴張する爲に此時勢に適應なうたる最低賃金を決定し、生活の安定を計り勞働者が安心して仕事に從事する様にせねばならない。

二、時間の短縮

勞働時間は出來る丈短くして欲しい現在の樣に朝早くから夜遲くまで即ち十二時間も十四時間も働らく樣では、我等勞働者も人間である以上必ずや身體が續かない、資本家は資本を投じてそれで遊んで居ても利益を取るのに、吾等勞働者は朝起るから夜る寢るまで働らいて僅に口を糊するを得る有樣である、是では勞働者は少しの休む暇もなく唯喰ふ爲に働らい居る丈で身體を弱らす樣な者である、實際に働らいて居る者から見ても從て眞面目に働らいて居る樣に見へても實は身體健康がなかなか續けぬのである、[illegible]時間が八時間位のものである、是だからいくら時間を長くしても生産能率は增すものではない、八時間勞働と十時間勞働とを比ぶれば八時間勞働の方が[illegible]を回復するの力が早い、月日の經に從て生産能率を增すものである、一般に日本の勞働者は歐米人と比ぶると青年及壯年の死亡率の高いのは衛生的設備の備らぬ不潔の工場であまり無理に長く勞働するからである、肺病や其外呼吸器病や神經衰弱などの多いのは最も雄辨なる證據である、國民の大部分をしめて生産工業の原動力である、吾等勞働者の不健康は國家衰亡の基である、故に國家玉峯の爲人類社界の爲又將吾等人生の爲に八時間勞働として少しは身體を休める樣にしたいものである。

三、地位向上